



(社) 芦屋市シルバー人材センター

はつらつ 芦屋

2009・7 No.8



平成21年度 通常総会

集う会員 313名

新型インフルエンザ感染の危機を乗り越えて



表彰を受ける20年在籍の
浅井、狩元、米田会員



10年永年表彰の皆さん

4月下旬から新型インフルエンザが世界中にひろがり、国内で厳しい予防措置がとられたにもかかわらず5月16日に突然芦屋市にも感染者が発生。学校を始めとして市の施設が一斉に一週間休業になって総会の開催が危ぶまれましたが、幸い予定通り5月28日にルナホールで平成21年度通常総会を開催することができました。マスク姿が目立つ会場でしたが昨年を大幅に上回る313名の会員が元気な姿で参加、委任状提出は278名で総会が成立しました。

林理事長の開会挨拶のあと山中市長、長野市議会議長、山田県議会議員、中西阪神南県民局長のご来賓からお祝いの言葉をいただきました。

永年会員表彰は20年在籍の浅井、狩元、森、米田会員が、また10年以上在籍者では阿部会員の他十二名の方が受賞されました。議事は高津議長のスムーズな進行の下、事務局の丁寧な説明と相俟って総ての議案が満場一致で承認されました。

議事終了後「安全講習会」が行われ、左記の通り今年の安全標語が発表されました。

市民センターに場所を移し、地域班別に二会場を使用しての懇親会では和やかに賑やかに、お互いの健康とセンターの発展を祝福しました。

平成21年度 安全標語

優秀

安全は 無理せず無視せず 積み重ね (鈴木一生)

佳作

安全は 確認確認 又確認 (森脇一成)

何事も 時間の余裕で 事故はなし (小林 守)

確認の 声掛けあって 事故防止 (藤田 季)

芦屋 しるば〜たいむず

創刊号
-SILVER TIMES-

平成21年3月発行

芦屋市シルバー人材センターここにあり 4万2千軒総てに配りました



事務局に搬入仕分けされる「しるば〜たいむず」



満員の入会説明会

昨年来、懸案になっていた当センターの広報誌「しるば〜たいむず」は、この三月に創刊号を発行。配布担当会員の全面的な協力で、芦屋市4万2千軒総てに配ることができました。

「はつらつ芦屋」・「事務局だより」・「設立20周年誌」などの編集の経験を活かした誌面は、皆さんもご覧になった通り。特に広報誌のためお願ひした竹野会員のイラスト（2ページ）は抜群の出来栄でした。

『芦屋市シルバー人材センターここにあり』をモットーに、これからも号を重ね、センターの普及に一層の努力を尽くしたいと思います。

嬉しい悲鳴

ちなみに配布の効果はてきめんでした。事務局の電話は鳴りっぱなし。ホームページのアクセス数もうなぎのぼり。問い合わせの対応に嬉しい悲鳴をあげています。

早速、4月の入会説明には、どっと44名が来場。入会希望も25名に達し、月平均の2・5倍となりました。

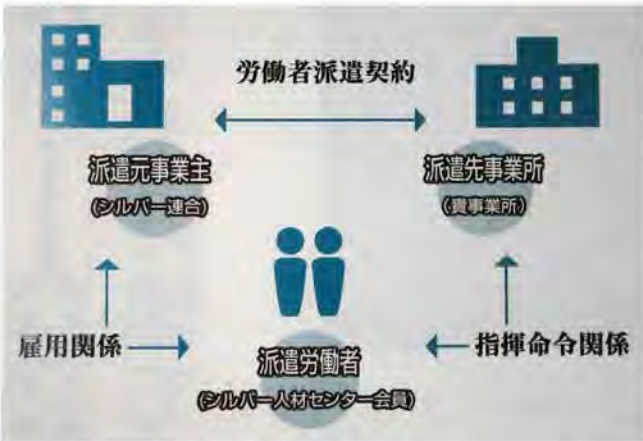
また、芦屋市婦人会から詳しく実情を知りたいと要望があり6月19日、センターの活動についての説明会まで開かれたのです。

今回の広報誌発行の成功は、企画・編集・全戸配布・事務局の素晴らしい連携プレーのたまものと言えるでしょう。

新たな取り組み！



派遣事業について山村会員(左)の解説を受ける会員の皆さん



シルバー派遣事業

- 1 労働者派遣事業法に基づき労働契約を結び、シルバー人材センター連合（兵シ協）と会員の間に雇用関係が発生し、派遣先から指揮命令を受ける
- 2 働いた対価はシルバー人材センター連合から「賃金」として支払われ、所得税が源泉徴収される
- 3 就業形態は、「臨時的かつ短期的」就業として一ヶ月10日以内、又は「軽易な業務」として週20時間を超えないことが原則
- 4 安全・適正に働くために、労働者就業規則（約束ごと）がある
- 5 厚生年金保険、健康保険、雇用保険の適用はないが、労災保険は適用される

全世界を巻き込んだ経済大恐慌は、日本でも百年に一度という不況を呼び、大量の派遣切りが問題になっています。

一方、法令の改正でシルバー人材センターは届出により派遣事業の実施が可能になりました。当センターも今年度の総会で承認され、6月に兵庫労働局に届出をすませました。

派遣事業にはどんな利点と問題点があるのか？届出に先立つ準備として2月20日、事務局が勉強会を開催。38名の会員が出席して、山村会員（前理事長）からシルバー人材センター派遣事業について詳しい説明を受けました。

導入のねらいとしては、専門的知識、技術、

『シルバー派遣事業』 届け出ました

技能、経験を生かした分野を就業に結びつけること。実体的に雇用関係にあると疑わしい就業を防止すること。会員の多様な働き方の選択肢を増やすこと。団塊の世代を迎え、就業の場の拡大が必要であることなどがあげられます。また、近隣の市への派遣をすることが可能となります。

一方、法の定めにより、業種によっては派遣できない業種や、製造業など多くの業種については最長3年までといった派遣期間の制限があります。

従来の請負・委任契約との違いを認識し、予備知識の習得に役立ちました。

鳴かないセミ



坪内 美津子
(会員番号1082)

毎年、梅雨の間の蒸し暑い晴れた夜明け、セミの初鳴きがある。最初は弱々しく、でも数時間後にはあの活気ある鳴き方になる。

ああ夏来たのだと実感する。

高層住宅の棟と棟の間の公園、決して多くない木々の下、土深く何年も命を育くんで来た昆虫セミ。ミーン、ミーン、ジー、ジー、羽を震わせながらひと夏の短い命を誇示しはじめる。時には「やかましい」とどなりたくなるほどの大合唱も不思議なことに一斉に止まることがある。タクトを振るリーダーセミがいるのだろうか。

るのだろうか。

日本では夏の訪れを教えてくれるセミの鳴き声を、森に囲まれたフオーカム村（イギリス）では聞くことがない。村の人に聞くと「セミいるわよ。でもめつたに鳴くのをおかないわネ」との返事。



り、腹を上にして命絶えたセミを空き箱にピンでさして、イギリスの友達に見せるのだと言っていたのを思い出す。

今はプロヴァンスに引っ越し、太陽がいつぱいの村ではセミの鳴き声がかましく、教会の鐘の音よりも早く朝の時を知らせてくれる。夏になると家々のドアに陶器で作ったセミがとまっている。馬蹄と同じように幸運を招くとのこと。

夏でもカーデガンを手放せない気温の低い所ではセミにとつては夏ではないのだろうか。南半球の国ではセミはいっ鳴くのだろうか。

夏休みには日本を訪れた当時小学生だった孫はセミの抜け殻を集めた。色にそまると夏が来たのだと教えてくれた。

中学生になった孫はもうセミには興味がなく、リュベロン山脈のすそ野に広がるラベンダー畑（写真）が紫色にそまると夏が来たのだと教えてくれた。



竹野 勝久 (会員番号841)



ヒゲ男爵 (会員番号1039)

株安と不景気なのにメタボ高

アシヤの東 (会員番号443)

猫と居る伴せ人と分かちたい

森脇一成 (会員番号613)

給付金孫の笑顔できえてゆく

好記高齢者 (会員番号873)

政治屋は井戸堀どころかピルを建て

古乙女 (会員番号26)

鏡よ鏡このお婆さん誰ですか？

知波一人 (会員番号786)

国の金だまして使う技競う

川柳随時募集中!

新上海 チャイニーズレストラン



上海出身のコックが作る
“安・旨・大”と
三拍子揃った本格中華！

西宮と芦屋の境目に位置し、国道2号線沿い。「ゴジマ芦屋店の南対面。神戸の有名レストランで長年料理長を務めた上海出身の凄腕シェフによる本格中華で、「安くて、旨くて、満腹なら最高」の“知る人ぞ知る”チャイニーズレストラン“新上海”。

アツサリとした上海料理で季節の魚介類、肉類、点心など約70種類以上の料理を、オーブンキッチンで厨房で手際よく鍋を振り大きな中華なべから、ジャーツと威勢よく立つ音と香りとセイロから立つ白い湯気が食欲をかきたてます。

人気ランチは、「麺」と「飯」の組合せ自由ランチ720円。また、



日替わりランチ ¥700 (2品+スープ)
西宮市弓場町 9-31
電話 0798-22-7450
AM 11:30~PM 2:30 PM 5:00~9:30
(日・祭日は9:00まで)
定休日:月曜日(祭日の場合は翌日振替)

日替わりランチ700円(写真)はまさに「安・旨・大」。そして、飲茶ランチ1200円は皮から手作りの小籠包や蒸し餃子、二ヶ月かけて作る塩玉子入りチマキ、じっくりとタレに漬け込んで焼き上げるチャーシューなど手作り料理。夜は、単品70種類以上の料理と夙川コース・西宮コースなどコース料理もお楽しみ下さい。

上海出身の料理長のこだわりは、「いかに多くの手作り料理を」提供できるかを基本とし、「豆板醤などの調味料も手作りにこだわって、塩分控えめの料理を」提供する事が出来ます。そして、本場中国のスタッフと交わす和やかな会話も楽しみながら、大型中国料理店にはない家庭的な雰囲気は是非味わってください。

(取材・鈴木一生)

3時まで。月水金・火木土の2人体制でやっています。

木曜日の午前中に一週間分の食材の買出し。栄養と食の安全を考慮してメニューを作りませんが、日によって3名から16名程の人数のばらつきがあつて大変です。余つてしまうと、きもあれば、足りないとき



ワーク・ア・ラ・カルト 芦屋グリーンランドテニスクラブ

朝日ヶ丘の伝統あるこのテニスクラブに調理補助として就業してから11ヶ月になります。環境も良く、社長はじめ職員の方々も良い人達ばかりです。時間帯は10時から午後3時まで。月水金・火木土の2人体制でやっています。

お米や食材を2階に持つて上がる時は大変ですが、よい人達にめぐまれた働きやすい職場です。

富田 良子
(会員番号113)

てこめ込み気意

”プロの技“ 習得目ざし

これからも需要の見込まれる「障子・網戸の張り替え技術」を習得しようと、2月、2日間に延べ21名の会員が参加。プロの腕を持つ乃生須・山中・山本会員を先生に、講習会が開かれました。

古い紙のはがし方 棧を雑巾で綺麗に、よく乾かすのりは薄く少な目に カッターの刃をマメに替える 障子の種類によるコツ などなど・・・

先生のお手並みに感心しながら、適切なアドバイスに納得しきり。2時間の実習でみるみる腕前は上達。真っ白に仕上がった障子は、予想以上の見事な出来栄でした。

また、網戸の要領もテキパキした解説と、「習って、馴れる」の努力が実を結び、二つの講習会は大成功。今年度はいよいよ技能班の立ち上げです。



熱心に実習に取り組む参加の皆さん



障子張りに必要な道具

オレンジリングはめましょう

認知症サポーター養成講座を開催

「老いは必ずやってきます」85歳以上の高齢者の4人に1人が認知症になると言われています。現在、全国で205万人、芦屋市でも1800人が認知症だそうです。その方たちの手助けをして、少しでも住みやすい環境にするため、



100万人の認知症サポーター養成を目標に、全国的な活動が展開されています。

芦屋市シルバー人材センターとしても主旨に賛同して2月27日、認知症サポーター養成講座が開かれました。

小雨について女性中心に43名の会員が参加。ビデオの放映で認知症の実状と介助の方法を観察し、講師の辻原会員の体験談を交えたユーモアあふれる講義に耳を傾けました。

出席会員の苦勞話も披露され、介助の必要が改めて身近に感じられたようです。

サポーター認定のしるしとしてオレンジリングが贈られ、写真の様に皆さんの美しい手首を飾りました。



楽吟集



宮本 允子
(会員番号26)

元気で生き生き働く先輩と接し、私の日々の暮らしはシルバー人材センター抜きには語れません。

近ごろは何かにつけ「古い」を感じるようになりました。頭の方も少々ヤバイと感じる今日この頃です。

「あの人ね」「そうあの人のよ」と正しき名
出ぬまま続く友との会話

「よっこらしよ」二階に上がり「ハテ私、
何しに来たの？」と我に問うなり

「元気なうちに、生きてるうちに」を合い
言葉に同窓会も盛んです。

同窓会あの日にもどり若やぎぬ
賞味期限を過ぎたるわれら

六十年針箱にある制服の
ボタンの君も枯れすすきなり

夫との付き合いに先ず生かしましょう。
シルバーで覚えた六秒ガマン

最後に、新聞で見つけたあやかりたいこと。

入会規定七十五以上という会の
「アラッパチ」なる婆さん輝く

「アラフォー」ならぬ「アラッパチ」(八十歳前後)。歌、ダンス、デジカメを手に街に出る。長寿を満喫する婆さんたちのキーワードは「好奇心」だとか・・・

長い間、この「ひろば」でつたない「楽吟集」を掲載していただき、ほんとうに有り難うございました。今後も「はつらつ芦屋」が、より楽しく発展して行くことを祈りつつ、ペンを置きます。

お知らせ

楽しい文章とユニークな歌で、「ひろば」を飾っていたいただいた宮本さんの『楽吟集』は、今号で休載となります。創刊号から連載の努力に、改めて感謝の拍手を送りたいと思います。有り難うございました。

竹野会員の四コマ漫画が今号から連載となります。お楽しみ下さい。

健康の秘訣

食にこだわって・・・

小金沢 房雄さんの巻き

(会員番号1348)

平成19年9月に86歳で入会、大正10年生まれで現在88歳になられた小金沢さん。陽光町のご自宅を訪問し取材をしました。

問―若さの秘訣は？

答―水と毎日の食事です。すべて自炊で外食や出来合いは一切いいただきません。昔、水はアルカリイオン水オンリーでしたが、今は備長炭を入れて飲料水を作っています。

芦屋に来る前は、長野におりましたが、洋服店経営のかたわら、自分で無農薬の野菜を作っていました。今は有機栽培野菜を取り寄せています。肉は週に一回、後は毎日魚と豆でたんぱく質を補います。お米は長野の友人から低農薬のお米を送ってもらいます。それはそれは美味しいですよ。

問―シルバーではどんなお仕事をされているのですか？

答―近くの公園や町内の見回りをさせてもらっています。

問―ご家族は？

答―妻を亡くしまして、この家は私ひとり住まいです。娘が二人、一人は芦屋で近くに、一人は西宮で、双方に大きくなった孫が居ります。

男性のお一人住まいですが、玄関や棚の上には花が。台所には、夕食のための季節の野菜が下ごしらえされており、健康の秘訣はまさにこれかと感じました。

こだわりのお水で、有機栽培の美味しいお茶を入れていただき、小一時間、楽しくお話しを聞かせていただきました。

(取材・一瀬奎次郎)



粹でおしゃれな小金沢さん

抜群のご報告

尾っぽをブンブン？

僕は、ウエルシュ・コバーの事務所にもときどきお邪魔しています。事務所のみんなは「ロッキの家に来て6年、体重は13・5kg！

僕のパパ（盛林一男会員）は若い頃から電気店を経営していて、シルバーからの注文では電気関係の修理なんかを引き受けて大活躍。でも

最近はずっと体調が悪くて、おんなじ会員の宮本嘉子さんに僕のお散歩を手伝ってもらった。

宮本さんは週2回、2時間たっぷりお散歩に連れて行ってくれるよ。芸術的なセンスも抜群のとっても素敵な女性だよ。

宮本さんと一緒にシル

僕も嬉しくって尾っぽをブンブンと・・・。

あ、コーギー犬には尾っぽはなかったね。足も短いけど、とっても活動的なんだよ。古くから牧畜犬として自分よりも大きな牛や羊にもひるむことなく、とっても勇敢って言われるけど、ちよつと照れちゃうな。

家族のみんなや宮本さんに大事にしてもらって、毎日僕はとっても幸せなんだ。

取材・大重美奈子





昔賑わった港町下津井の珍しいお話をうかがう



瀬戸大橋の美しい曲線が海と空を分ける

前期会員研修バスツアーは新型インフルエンザが漸く落着きを見せた6月4日、参加者83名により盛大に行われました。今回も天気

むかし下津井回船問屋、鷺羽温泉を訪ねて



楽な椅子席で盛り上がった懇親会



大盃で“カンパーイ”



に恵まれ、バス2台で岡山県下津井の昔の賑いの面影を残す回船問屋を訪ね、祇園神社で瀬戸大橋と美しい島々の遠望に心を打たれた後、鷺羽温泉備前屋甲子で恒例の懇親会と温泉を楽しみました。帰りは児島の岡山県漁連ふゆーちあーでお土産を山ほど仕入れ、一同元気に家路につきました。



「あれにしようかこれにしようか」「えーい、みんな買ってしまえ！」



歩こう会からのお誘い



中山寺にて



北山植物園にて

人として生まれて健康で長生きしたいと思うのは万人の願いかと思えます。
四季折々のやさしい自然、かぐわしい風を身体いっぱい浴びて歩くことは心身共にリラックスできて健康に良いと思います。「花鳥風月」この言葉は絵画の用語ですが、耳で鳥の歌声、風の音を聞き、目で草木の花を鑑賞し、鼻で四季の匂いをかいで、歩いてみませんか？
少々の時間があれば、費用もほとんどかからず経済的にも、健康的にも良好なウォーキング。過去9回芦屋市内や西宮、宝塚市内を歩きました。
多数の会員の参加をお待ちいたしています。

事業委員 酒井 淳 (会員番号750)



甲山にて



潮芦屋公園にて

庭園都市

面目躍如

天候不順で心配された「桜」ですが、「芦屋さくらまつり」に合わせて見事満開。歩道には、住民の丹精籠めたチューリップが文字どおり花を添え、道行く人を楽しませました。

この素晴らしい「さくらのトンネル」を、また来年も見ることが出来ますように・・・願いながらシャッターを押しました。

平成21年4月5日 川西町さくら通で

笹部 成雄（会員番号873）



編集後記

今号は悲喜こもごもの編集作業でした。

楽しい文章と歌で世相を表現、思わず引き込まれた宮本さんの楽吟集は今号で終了。また広報に積極的な活躍をされた山本さんは、体調が優れず委員を辞退されました。ともに創刊からのお付き合いがあったので誠に残念です。

替わって、竹野さんの四コマ漫画が登場。会員からの投稿も次々と寄せられ、「ひろば」は様変わりとなります。

芦屋市シルバー人材センターは派遣事業に参加が決まり、私たちの仕事への取り組み方も意識改革が求められているようです。

環境改革の効果のせい、芦屋川に集う野鳥は年々増え続け、自然を取り戻しつつあるのを感じます。わが家のベランダにいろいろな昆虫が訪れ、表紙を飾れるのもその証でしょう。

番外ですが、「しるばくたいむず」のスムーズな発行は広報委員会の喜びの一つです。

笹部 成雄

はつらつギャラリー

夫婦合作の絵巻物



岡村 喜美子
(会員番号850)

この齢になって日々の暮らしのなか、芦屋市シルバー人材センターの一員として曲がりなりにもお役にたっているかなと思う毎日です。
趣味で始めたお習字も長い月日が経ち、主人も少し絵を描きますので、絵巻物合作で仕上げたり楽しんでいきます。
今の後も元気で長生きしたいものです。

横笛双紙

中・ももの……や建礼門院の時時
川原横笛より二人の女人ゆめより川
原をま平宗代時越前の前司威彌にて
下わね海より一人横笛より方を尋ねるよ
……よあ……花……お……
完結美無……つ……お……
小春つよ風……り……る……柳の……
……や……は……月……
……る……比……海入道殿よ上……人……
……さ……誠……代……
其……子小松殿も……内三……
……
小松殿よ女院の……
……

